

自閉症・情緒障害学級における「交流及び共同学習」の指導(1)

本学級における交流及び共同学習の取組

【児童の実態】

- 当該学年の学習活動が可能で、当該学年の学習内容に興味をもって取り組める。
- 自閉症の特性を有しているが、特定の人とのコミュニケーションが十分できる。

- 児童の実態や興味・関心に応じ、通常の学級の授業や休み時間における交流及び共同学習の在り方を検討した。

交流及び共同学習ための支援内容

自閉症・情緒障害学級における指導

- 必要に応じて通常の学級で学習する教科の予習や復習を実施
- 嫌なことを言われたときの対応の仕方を指導

通常の学級における授業中の支援内容

- 教員の指示を聞くための支援（難しい言葉の説明など）
- ノートの取り方の支援（書き出し、改行、使う鉛筆など）
- 話し合いに参加できるための支援（話し合いのグループの指示、意見の述べ方、自分の感情の抑制等）

通常の学級における授業中以外の支援内容

- 授業準備、教室移動の場面での支援
- 授業が終わった後の片付けの場面での支援
- 休憩中の支援

自閉症の特性に応じた支援の工夫

- 児童が困る場面(グループでの話し合いなど)では、具体的な指示を出す。

まず、友達の意見を聞こう。

意見があれば、手を挙げよう。

- 授業以外の時間(授業準備の時間、片付け、教室の移動など)、に具体的な指示を出す。

机の上のものをしまおう。

机と椅子を運ぼう。

- 授業時の自閉症・情緒障害学級の教員と、通常の学級の教員の支援や配慮事項について整理し、同様の働き掛けを行うとともに、お互いの役割を明確にする。

指導の成果

- いずれの児童も通常の学級の授業に計画通り参加でき、学習に取り組むことができました。
- 自閉症・情緒障害学級の児童が授業中に発言する場面もありました。
- 周囲の児童も、当たり前のように、自閉症・情緒障害学級の児童を受け入れています。



考察

- 授業時以外の時間(休み時間や教室移動時などの“構造化”されていない時間)の支援は欠かせないことが分かりました。
- 円滑な交流及び共同学習の実施には、通常の学級の担任との打合せ事項を蓄積していくことが重要です。

自閉症・情緒障害学級における「交流及び共同学習」の指導(2)

本学級における交流及び共同学習の取組

自閉症・情緒障害学級に在籍する5年生1名の児童について【児童の実態】

- 自閉症スペクトラム障害の児童である。
- 担任の指導により、始業式の舞台上の挨拶ができた。冬休みの宿題で間違えたところがあっても動揺しないで訂正できた。
- ノートの取り方を習得した。

○以上の実態から自閉症・情緒障害学級で身に付けた力を交流及び共同学習で発揮することを検討した。

○通常の学級での授業参加について当該児童が不安を感じる部分について自閉症・情緒障害学級担任が支援する。

交流及び共同学習のための支援内容

自閉症・情緒障害学級における指導

- 授業中の発言の仕方についての指導の実施
- グループでの話し合い活動における意見のまとめ方の指導（友達の意見が自分と違っていても良いところを認めてグループの話し合いに参加する）。
- 当該学年の進度と連携して教科学習を進める。
- 当該児童の興味・関心の高い内容を把握するとともに、興味・関心の幅を広げる。

通常の学級における授業中の支援内容

- 視覚的に分かりやすい教材の活用
- 構造化された分かりやすい板書の工夫
- 当該児童の発言等の良いところを賞賛して意欲を高める。

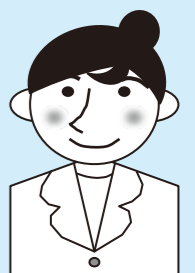
交流及び共同学習の活動の内容

- 単元名「工業生産を支える人々」
- 本時の目標
自動車はいくつの部品でできているか考えることを通して、自動車に関心を持ち、自動車作りを調べる意欲をもつことができる。
- 主な学習活動と当該児童の様子

| 主な学習内容 | 当該児童の様子 |
|---|---|
| ○自動車にはどのような部品があるのか、知っている部品を書く ※ 板書の工夫 自動車を解体した写真を提示し、部品点数の多さを視覚化して提示した。 | サイドミラー、カーナビゲーションステアリング等の部品をノートに書くことができた。 通常の学級担任の発問に対して挙手して答えることができた。 |
| ○自動車作りについて調べてみたいことを短冊に書く。 ○グループの中で意見をまとめて、調べたいことを発表する。 ※グループに当該児童を参加させるための言葉掛けがあった。 | 短冊を渡した友達に対して、会釈をして受け取ることができた。 「なぜ外国で組み立てるのか」を短冊に書くとともに、グループ内で発言することができた。落ち着いて話し合いに参加できた。 |

指導の成果

- 授業の開始当初、当該児童が気後れして自席に着けなくなる場面がありましたが、自閉症・情緒障害学級担任が教室の後ろに席を移動して、当該児童が着席しやすい環境を作りました。
- その後は、当該児童の興味・関心の高い学習内容であったことから、自信をもって参加することができました。



考察

- 自閉症・情緒障害学級担任と通常の学級担任とが連携することで、児童が円滑に交流及び共同学習に参加することができます。

東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画に基づく
特別支援学級の教育内容・方法の充実事業報告
小・中学校の特別支援教育の推進のために

東京都教育委員会印刷登録
25年度 第201号

発行日 平成26年3月28日
発行 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
所在地 〒163-8001 東京都新宿区西新宿2丁目8番地1号
電話番号 03(5320)6847